



○ 少年の主張大会

町内の小中学生による「少年の主張大会」が六月二十六日に笠松中央公民館で開催された。小学生六名、中学生五名がそ

れぞれの思いを熱く語った。そのうち五名が、仲間や地域の人と一緒に取り組んだこと、地域の人の世話になったり、ふれ合ったりして感じ考えたことについて話してくれた。

○ 自・心・を・育・む

主張の中で語られた地域での取り組みとは、笠松の伝統行事である「大名行列お奴」、四十年近く活動されている「ぎふ児童合唱団」の施設慰問や地域交流、学校でのあいさつ運動、地域でのゴミ拾いや見



守り隊の方々とのあいさつである。いずれも、自ら取り組みに参加し、活動しながら考えを深め、今後も自ら取り組み決意を表明している。「まず、自分からやろう。大好きな町のために…、町民の一人として…。」そんな熱い思いが強く伝わってくる。

○ 地域で育む心

さらに、発表者は地域の人々とのふれ合いが自分を支えてくれる、新たな世界に気づかせてくれる、さまざまなことを教えてくれる存在であると気づき、大切にしたいと語っている。

地域の人々といつしよに取り組む中で人の心にもふれる。見守る心の温かさや厳しく背を押す励ます心にもふれた時、はじめてふるさとの風土を感じとり、町に対する誇りやこの町を大切にしたい人々の心に気づくのである。

○ わがまち 笠松を！

「少年の主張大会」で語られたそれぞれの活動は人と人のかかわりを育み、新たな町づくりに自ら取り組みもうとする心を育んでいる。このまちで育つ子ども達が、笠松の文化や風土を大切にしたいと語り、それを引き継ぐ心をつけている。主張大会の子ども達の姿は、笠松の人づくり・風土づくりが着々と積み上げられていることを示している。



身につけたお奴の振りつけを披露し 伝統を大切にしたいと発表する小学生